

○3番（阿多己清君）

フッ化物洗口事業の推進についてであります。この事業については、これまで一般質問等でいろいろ議論されてきています。先般、始良地区歯科医師会霧島支部の方々と議員と語り合いがあり、私も傍聴させていただきました。説明の中で、虫歯や歯周病は一度かかると、簡単に治らない。虫歯になればその部分を削り、穴を埋めるだけで、歯は再生しない。虫歯・歯周病は、学齢期に成長発達期からゆっくり始まり、時間とともに重症となる。そのため、学齢期の虫歯予防が大切である。虫歯予防に有効な方法としては、フッ化物洗口、歯科医院でのフッ化物歯面塗布やシーラント、フッ化物配合歯磨剤、それと適切な食生活であるとのことでした。なぜ、小学校でフッ化物洗口を行うのかには、この時期の虫歯リスクが高いこと。幼稚園や小学生の乳歯から永久歯に生え換わるこの時期に、洗口することで歯を強くするのだということでした。また、学校でのフッ化物洗口の効果としては、佐賀県や新潟県で実証済みであります。特に新潟県では、平成 26 年の調査によると、12 歳児の 8 割が虫歯ゼロで、1 人平均虫歯数が 0.48 本とのことであります。このように先進事例では、かなり効果が出ていると言えます。したがって、本市の取組も大いに推進していくべきと私は思います。昨日の中村議員の一般質問で答弁をされておりますが、これまでの本市での取組状況と平成 29 年度での計画について、再度お示しください。

○保健福祉部長（越口哲也君）

フッ化物洗口事業の推進についてお答えします。フッ化物洗口事業につきましては、これまで、保育園、幼稚園、認定こども園においては、52 園のうち 29 園で実施していただき、小学校においては、35 校のうち 5 校が実施しております。このような中、本市と致しましては、平成 29 年度における当該事業を実施するに当たり、未実施の保育園等を訪問し、職員の方々などに対してフッ化物洗口事業の趣旨等の御説明をした上で、今後の取組についての意向調査を実施しているところであり、現時点におきましては、5 園が当該事業に取り組みたいとの意向を示されておりますので、今後におきましては、職員及び保護者に対する説明会を開催させていただく予定としております。また、小学校につきましては、今後、11 校において教職員及び保護者に対する説明会を実施してまいります。なお、具体的に事業を推進する場合には、厚生労働省のフッ化物洗口ガイドラインに則り、インフォームド・コンセントに基づいた説明会を行った後、保護者の同意を適切に得た上で実施してまいりたいと考えております。

○3番（阿多己清君）

昨日の一般質問で、若干答弁があったと思うんですが、本市の子供の虫歯の本数と言いましょうか、そういう現状を再度教えていただければと思います。

○健康増進課長（林 康治君）

健康増進課で実施しております乳幼児健診の結果に基づいて、御報告いたします。平成 27 年度の 1 人平均虫歯数ですが、1 歳 6 か月児が 0.08 本、3 歳児が 0.74 本でございます。

○保健体育課長（赤塚孝平君）

平成 27 年度における小学校第 6 学年の 1 人平均虫歯本数は 0.8 本で、県平均の 1.1 本に比べ 0.3 本少なく、中学校第 1 学年の 1 人平均虫歯本数は 1.0 本で、県平均の 1.3 本に比べ、同じく 0.3 本少ない状況でございます。

○3 番（阿多己清君）

佐賀県のほうは、学校で 100%の取組と聴いておるんですが、また薩摩川内市でも全校の実施と、この前の説明の中で頂いていました。本市は、現在、平成 29 年度に 11 校の説明会を予定しているという御答弁を頂きましたけれども、本市での学校の全校実施というのは、今後、どれぐらいの年度で予定をされているのか、そういう計画があればお示しいただければと思います。

○教育部長（花堂 誠君）

結論から申し上げますと、小学校における霧島市内の全小学校の実施というものについて、具体的に何年度からということは計画したものはございません。ただ、我々と致しましては、昨日もお答えいたしましたけれども、厚生労働省のフッ化物洗口ガイドラインに従いまして、その一番の目的は、霧島市においては健康きりしま 21 の達成、それには健康寿命の延伸、そして早世、早死にです、そういったものを減少させていく。それから生活習慣病を少なくすると、生活の質の向上です。そういったことが最終目標でありまして、その一つが健康な歯でものをずっとよくかめるということが、一番重要だと考えておりますことから、フッ化物洗口に取り組んだ経緯がございます。そういったこともございますけれども、厚生労働省の考え方と致しましても、学校歯科医等の適正な指導管理の下に教職員の協力、それから当然、保護者の理解と同意、そういったものをしながら手順に従って、慎重かつ適正に進めていくということになっております。そういったことから、本市と致しましても、行く行くは全校にぜひ実施していただきたいということを考えておりますけれども、それぞれの事情もございまして、丁寧に 1 校ずつ説明をしながら取り組んでいきたいと考えております。

○3 番（阿多己清君）

この平成 29 年度の実施予定校と言いましょうか、説明会を 11 校でという説明だったんですが、11 校は、もう当初から決めておられて、それとも市内 35 校の小学校がありますけれども、全体に話を投げて、結果的に 11 校ということによろしいですか。そういう計画だったんでしょうか。

○保健体育課長（赤塚孝平君）

昨年の 11 月に、まだ説明会を実施していない 23 校の学校に説明会実施に対する意向調査を行いました。その中で、平成 29 年度中の説明会実施を希望した 11 校を予定校として選定したところでございます。

○3 番（阿多己清君）

全校実施を最大の目標に掲げておられるだろうと思いますが、今抱えている課題は、何が考えられるんですか。

○保健体育課長（赤塚孝平君）

フッ化物洗口において、一部、不安でありますとか誤解を抱いている方々が、実際におられるところでございます。説明会において、教職員や保護者に対して正しい知識や情報をお伝えすることはもちろんのこと、市の広報誌等を活用した広報活動を行い、広く市民の皆様へも、フッ化物洗口の有効性や安全性について周知していくことが重要であるというふうに認識しております。

○3 番（阿多己清君）

昨日の中村議員の一般質問で示されました資料の中で、私、ちょっと気になるものが一つあります。それは、長崎市の学校での取組の成果のグラフであります。17年間続けているのにも関わらず、何か逆効果と言いましょうか、成果が上がらない学校があったと思うんですけども、それであれば、これはもうやめるべきではないかなと、昨日の段階ではそういう思いもしました。その後、保健福祉部でもいいですが、教育委員会でもいいですけども、ここの実態は調査はされておられませんか。もし分かっていたら、教えていただければ有り難いですが。

○教育部長（花堂 誠君）

昨日も答弁いたしましたと思うんですけども、中村議員からお示しのあったものは、あくまでもそういうデータがあるということで理解しているところでございまして、個別の小学校名は控えたいと思いますけれども、中には全校児童生徒数が非常に少ない小学校等がございまして、昨日も保健福祉部長が申し上げましたが、虫歯の予防は、やはりブラッシング、それから甘味料、甘いもののコントロール、そしてこのフッ化物洗口というものを合わせて実施していくというのが、有効だと厚労省では唱えておりますので、そういったことから、例えばフッ化物洗口だけを実施しても、家庭において甘いものを食べて歯磨きもしないでとなると、やはり二つの条件が欠落することになりますから、虫歯はどうしても減らないということは表れると思います。ただ、そのフッ化物洗口を長くして、少人数の子供たちが、ちゃんとブラッシング、甘味料の調整もして虫歯がゼロということであれば、あの赤い線は一番左に来ていたのかなと思います。そういったことから、いろいろなデータがありますけれども、それはどういう状況で、どういう要因で集計されたものか、昨日もお答えしましたとおり、それらも参考にさせていただいて、本市においては、どういう分析が適切であるか、それを今から保健福祉部とも連携して、当然、歯科医師会、保健所といったところとも連携して、検証については実施しなければならないと考えております。

○3番（阿多己清君）

しっかりと国のガイドラインに沿って行うことが、まずは第一かなという思いもします。今、この時期の実施というのが小学校低年齢児、そういう実施というのが、すごく大事だろうと私は思っているところであります。効果はすぐには表れません。そういうところで、早目の全校での実施という取組を期待したいんですけども、教育長の思いはいかがですか。

○教育長（高田肥文君）

学校の子供たちの安全とか健康というのは、学校保健安全法という法で定められておりますので、私どもは、その方針に則って、子供の疾病をいかに防ぐかとか、そういうことでいろいろ知恵を出しているわけでありまして。先ほどから出ております厚生労働省のガイドライン、そして県が示した方針、そして私どもは健康きりしま21の方針に則って、まず幼児期の幼稚園、保育園、認定子ども園でされているのは、乳歯が主です。それが永久歯に生え変わる学童期と言いましょうか、そこでやらないと効果はないですよというような歯科医師会等の専門家の意見を聴いて、こういう決断をしているわけでありまして。ですから、子供たちが健康な歯を維持するため、先ほど部長も言いましたが、歯磨きとか甘いものを食べないとか、そしてこのフッ化物洗口を合わせることで、将来的に健康な歯が保たれて、年を取っても8020が達成できれば、医療費の軽減とかというものにもつながっていくのかなと

思いながらの思いで、実施しているわけですので、どうか御理解を頂きたいというふうに思っております。

○3番（阿多己清君）

先般の歯科医師会との語ろかいには、傍聴議員もかなり多く出席をされました。先生方の説明は事業推進に多くの議員が理解を示したのではないかなと、私は思います。保護者等に賛同が得られない児童については、実施はやむを得ないと私も思いますし、しっかりと取組をお願いいたします。さらに、実施のためのスタッフの問題、そしてそれを行う時間があるかの問題、そういう幾つかの課題もあるかと思うんです。そこらがしっかりクリアできれば、それは国のガイドラインを持って、ルールに則って大いに進めていくべき事業だと思しますので、今後の取組を期待して、この4項は終わりたいと思います。